

SPARC T5-8 サーバー

プロダクトノート

Copyright © 2013 , Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ, AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

1. このドキュメントの使用方法	5
関連ドキュメント	5
フィードバック	5
Oracle サポートへのアクセス	5
2. 最新情報	7
プリインストールされているソフトウェア	7
サポートされている最小バージョンのファームウェア、OS、およびソフトウェア	8
Oracle Solaris 11 OS の必須のパッケージ更新	8
Oracle Solaris 10 OS の必須パッチ	9
Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ	9
Oracle Solaris 10 8/11 の必須パッチ	9
Oracle Solaris 10 9/10 の必須パッチ	10
パッチを取得する	10
既知の問題	11
sas2ircu が RAID ボリュームの作成に失敗することがある (15788910)	12
rKVMS では SPARC クライアントからのストレージのリダイレクトがサポートされて いない (15795058)	13
マウスポインタがリモートウィンドウのカーソルに同調していない (15798251)	14
警告メッセージが障害の発生した USB 接続を正しく示していない (15799824)	15
kmdb で failed to allocate XXX bytes と報告される場合がある (15806455)	16
xhci ブート時に USB ポート上のデバイスが失敗する (15809582)	16
/System/Cooling ターゲットが電源装置ファンはサポートされていないと表示 する (15809846)	16
libldom/ldom_xmpp_client.c 内でファイル記述子が漏えいしている (15811297)	17
断続的な fault.sunos.eft.unexpected_telemetry の障害が発生する (15820471)	17
ilomconfig が Internal Error を報告することがある (15823485)	19
高速 PCIe I/O カードが Gen1 I/O 速度にダウントレーニングすることがある (15825866)	19
アクティブな mempm がすべてのノードでケージ割り当てのバランスを取るべきで ある (15944881)	21
HC からの再構成呼び出し後に POST が機能しない (15968276)	22
ドライブを構成解除したときに、ドライブの取り外し OK LED が点灯しないこと がある (16051551)	22
FPGA iPOST power-on-reset、error-reset、および hw-change トリガー が機能しない (16192025)	25

同じ名前の複数の LDOM 構成ファイルが存在する場合に Oracle ILOM が 混乱する (16239544)	26
CPU の電力管理によってディスクの IOPS パフォーマンスが低下する可能性 がある (16355418)	26
SR-IOV デバイスの使用中に、リソースをバインド解除または削除しようとすると ハングし、Ctrl-C キーを使用して停止できない (16426940)	26
Oracle Solaris 10 OS が一部の障害情報を表示しない (16456603)	27
SP の管理で予期したとおりに表が表示されない (16607793)	27
ドライバの接続を試みるときにドライブコントローラの準備ができていない (16608475)	29
サーバーはラックに入れたまま輸送できない	30
プロセッサモジュールのベゼルのラベルが正しくない	30
ドキュメントに関する問題点	30
プロセッサモジュールのラベルに正しくない DIMM 構成が示されている	30
プロセッサモジュールのラベルに正しくないプロセッサモジュール構成が示され ている	31
プロセッサモジュールのラベルにフィルターパネルのサポートが示されている	31

1

・・・ 第 1 章

このドキュメントの使用方法

このドキュメントには、Oracle の SPARC T5-8 サーバーに関する最新情報と既知の問題が含まれています。

- [5 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [5 ページの「フィードバック」](#)
- [5 ページの「Oracle サポートへのアクセス」](#)

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://docs.oracle.com
SPARC T5-8 サーバー	http://www.oracle.com/goto/T5-8/docs
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Solaris 11 OS	http://www.oracle.com/goto/Solaris11/docs
Oracle Solaris 10 OS	http://www.oracle.com/goto/Solaris10/docs
Oracle VM Server for SPARC	http://www.oracle.com/goto/VM-SPARC/docs
Oracle VTS	http://www.oracle.com/goto/VTS/docs

フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通して電子サポートにアクセスできます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> または聴覚に障害をお持ちの場合は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

最新情報

これらのトピックには、サーバーに関する最新情報が含まれています。

- ・ [7 ページの「プリインストールされているソフトウェア」](#)
- ・ [8 ページの「サポートされている最小バージョンのファームウェア、OS、およびソフトウェア」](#)
- ・ [8 ページの「Oracle Solaris 11 OS の必須のパッケージ更新」](#)
- ・ [9 ページの「Oracle Solaris 10 OS の必須パッチ」](#)
- ・ [11 ページの「既知の問題」](#)
- ・ [30 ページの「ドキュメントに関する問題点」](#)

プリインストールされているソフトウェア

ソフトウェア	場所	説明
Oracle Solaris 11.1 OS	OS はドライブ 0 にインストールされています (ZFS ファイルシステムを使用)。	ホスト OS。
Oracle VM Server for SPARC ¹	<code>/opt/SUNWldm</code>	論理ドメインを管理します。
Electronic Prognostics ¹	<code>/usr/lib/ep</code>	特定の FRU 障害の可能性について早期の警告を提供します。
Oracle VTS ¹	<code>/usr/sunvts</code>	ハードウェアの検証テストを提供します。

¹これらのソフトウェアコンポーネントは、Oracle Solaris 11 OS ディストリビューションの一部です。

プリインストールされている OS は、サーバーにはじめて電源を投入したあと、適切な時点で構成することができます。

必須のパッケージ更新はプリインストールされていない可能性があります。サーバーを本稼働環境に移す前に、必ず必須の更新をすべて取得してインストールしてください。[8 ページの「Oracle Solaris 11 OS の必須のパッケージ更新」](#)を参照してください。

Oracle Solaris OS のインストールおよび構成の手順については Oracle Solaris のドキュメントを参照してください。

プリインストールされている OS を使用する代わりに、その OS を必須のパッケージ更新またはパッチとともに再インストールできます。[8 ページの「サポートされている最小バージョンのファームウェア、OS、およびソフトウェア」](#)を参照してください。

サポートされている最小バージョンのファームウェア、OS、およびソフトウェア

Oracle VM Server for SPARC をサーバーに構成する場合は、その OS の最小 (またはそれ以降) のバージョンをさまざまに組み合わせてインストールできます。たとえば、SRU 3.5.1 を含む Oracle Solaris 11.1 を制御ドメインに使用し、Oracle Solaris 10 9/10 をゲストドメインに使用できます。

ソフトウェア	サポートされている最小バージョン
Sun システムファームウェア	9.0.0 は Oracle ILOM 3.2.1 を含みます
Oracle Solaris 11 OS	制御ドメイン、ゲストドメイン、および非仮想化構成の場合: Oracle Solaris 11.1 SRU 4.6 これらのソフトウェアコンポーネントを含みます。 <ul style="list-style-type: none">• Oracle VM Server for SPARC 3.0.0.2• Oracle Electronic Prognostics• Oracle VTS 7.0 PS 15 8 ページの「Oracle Solaris 11 OS の必須のパッケージ更新」 も参照してください。
Oracle Solaris 10 OS	• 制御ドメイン、ゲストドメイン、または非仮想化構成の場合: Oracle Solaris 10 1/13 Oracle VM Server for SPARC 3.0.0.2 (制御ドメインにインストールする必要があります) • ゲストドメインの場合のみ: Oracle Solaris 10 9/10 OS または Oracle Solaris 10 8/11 OS に Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルおよびパッチを追加 Oracle Solaris 10 OS には Oracle VTS 7 PS15 が含まれています これらのソフトウェアコンポーネントをインストールできます。 <ul style="list-style-type: none">• Oracle Electronic Prognostics 1.3 9 ページの「Oracle Solaris 10 OS の必須パッチ」 も参照してください。

Oracle Solaris 11 OS の必須のパッケージ更新

現時点で、プリインストールされた Oracle Solaris 11.1 OS をこのサーバーで使用するために必要なパッケージ更新はありません。

OS を再インストールする場合は、サーバーやオプションのハードウェアまたはソフトウェアコンポーネントを本稼働環境に移す前に特定のパッケージ更新のインストールが必要になることがあります。サーバーには、少なくとも Oracle Solaris 11.1 SRU 3.5.1 が必要です。

最新の Oracle Solaris 11.1 SRU (Support Repository Update) をインストールしてください。このアクションを取ることで、確実に最新のソフトウェアがサーバーに組み込まれ、最良のパフォーマンス、セキュリティ、および安定性を得ることができます。

サーバーに現在インストールされている SRU を表示するには、**pkg info entire** コマンドを使用します。

pkg コマンドまたはパッケージマネージャーの GUI を使用して、次の場所から使用可能な SRU をダウンロードします。<https://pkg.oracle.com/solaris/support>

**注記**

Oracle Solaris 11 のパッケージ更新リポジトリにアクセスするには、必須の SSL 証明書およびサポートキーのインストールを可能にする Oracle サポート契約を結ぶ必要があります。<http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/o11-018-howto-update-s11-1572261.html> にある記事を参照してください。Oracle の証明書リクエストの Web サイト (<https://pkg-register.oracle.com>) に移動してください。

Oracle Solaris 10 OS の必須パッチ

Oracle Solaris 10 OS のインストールを選択した場合は、追加のパッチ (および場合によってはパッチバンドル) もインストールする必要があります。

Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ

このバージョンの OS は、制御ドメイン、ゲストドメイン、または非仮想化構成でサポートされています。

インストール順序	OS またはパッチ
1	Oracle Solaris 10 1/13 OS
2	必須パッチ: <ul style="list-style-type: none"> • 148322-07 (またはそれ以降) • 148324-06 (またはそれ以降) • 148888-03 (またはそれ以降) • 149638-01 (またはそれ以降) • 149644-01 (またはそれ以降) • 150011-02 (またはそれ以降) • 150025-01 (またはそれ以降) • 150027-01 (またはそれ以降) • 150107-01 (またはそれ以降)

Oracle Solaris 10 8/11 の必須パッチ

このバージョンの OS は、ゲストドメインでのみサポートされています。

インストール順序	OS またはパッチ
1	Oracle Solaris 10 8/11 OS
2	Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドル
3	Oracle Solaris 10 1/13 のすべての必須パッチ。9 ページの「 Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ 」を参照してください。

**注記**

Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールするまで、Oracle Solaris 10 8/11 OS は 512 基の CPU と 3840G バイトのメモリーしかサポートしません。それらのリソースを超えるサーバーでは、Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールするまでリソースを減らすか、より新しいバージョンの Oracle Solaris OS をインストールしてください。

**注記**

Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールするまで、Oracle Solaris のバグ 15712380、15704520、15665037 が発生する可能性があります。最初の 2 つのバグは、Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールすると解決されます。これらのバグは、パッチのインストールに影響しません。

Oracle Solaris 10 9/10 の必須パッチ

この OS は、ゲストドメインでのみサポートされています。

インストール順序	OS またはパッチ
1	Oracle Solaris 10 9/10 OS
2	Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドル
3	Oracle Solaris 10 1/13 のすべての必須パッチ。 9 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ」 を参照してください。

**注記**

Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールするまで、Oracle Solaris 10 9/10 OS は 512 基の CPU と 3840G バイトのメモリしかサポートしません。それらのリソースを超えるサーバーでは、Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールするまでリソースを減らすか、より新しいバージョンの Oracle Solaris OS をインストールしてください。

**注記**

Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールするまで、Oracle Solaris のバグ 15712380、15704520、15665037 が発生する可能性があります。最初の 2 つのバグは、Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールすると解決されます。これらのバグは、パッチのインストールに影響しません。

パッチを取得する

Oracle Solaris 10 OS のパッチを取得するには、これらの手順を実行します。

1. My Oracle Support にサインインします。
<http://support.oracle.com>
2. 「パッチと更新版」タブを選択します。
3. 「パッチ検索」パネルを使用してパッチを検索します。
「パッチ名または番号」フィールドを使用して検索する場合は、パッチの完全な名前または番号を指定する必要があります。例:

- Solaris 10 1/13 SPARC Bundle
- 13058415
- 147159-03

リビジョン番号 (最後の 2 桁) のないパッチ番号を使用して検索するには、リビジョン番号の代わりに **%** を入力します。例:

147159-%

4. パッチが見つかったら、README にアクセスして、そのサイトからパッチをダウンロードします。
パッチの README には、パッチのインストール手順が記載されています。

既知の問題

これらのトピックでは、このリリース時点での既知の問題について詳しく説明します。

- 12 ページの「[sas2ircu](#) が RAID ボリュームの作成に失敗することがある (15788910)」
- 13 ページの「[rKVMS](#) では SPARC クライアントからのストレージのリダイレクトがサポートされていない (15795058)」
- 14 ページの「マウスポインタがリモートウィンドウのカーソルに同調していない (15798251)」
- 15 ページの「警告メッセージが障害の発生した USB 接続を正しく示していない (15799824)」
- 16 ページの「[kmdb](#) で **failed to allocate XXX bytes** と報告される場合がある (15806455)」
- 16 ページの「[xhci](#) ブート時に USB ポート上のデバイスが失敗する (15809582)」
- 16 ページの「`/System/Cooling` ターゲットが電源装置ファンはサポートされていないと表示する (15809846)」
- 17 ページの「`libldom/ldom_xmpp_client.c` 内でファイル記述子が漏えいしている (15811297)」
- 17 ページの「断続的な `fault.sunos.eft.unexpected_telemetry` の障害が発生する (15820471)」
- 19 ページの「[ilomconfig](#) が **Internal Error** を報告することがある (15823485)」
- 19 ページの「高速 PCIe I/O カードが Gen1 I/O 速度にダウントレーニングすることがある (15825866)」
- 21 ページの「アクティブな `mempm` がすべてのノードでページ割り当てのバランスを取るべきである (15944881)」
- 22 ページの「HC からの再構成呼び出し後に POST が機能しない (15968276)」
- 22 ページの「ドライブを構成解除したときに、ドライブの取り外し OK LED が点灯しないことがある (16051551)」
- 25 ページの「FPGA `iPOST power-on-reset, error-reset`、および `hw-change` トリガーが機能しない (16192025)」
- 26 ページの「同じ名前の複数の LDOM 構成ファイルが存在する場合に Oracle ILOM が混乱する (16239544)」
- 26 ページの「CPU の電力管理によってディスクの IOPS パフォーマンスが低下する可能性がある (16355418)」
- 26 ページの「SR-IOV デバイスの使用中に、リソースをバインド解除または削除しようとするとハングし、Ctrl-C キーを使用して停止できない (16426940)」

- 27 ページの「Oracle Solaris 10 OS が一部の障害情報を表示しない (16456603)」
- 27 ページの「SP の管理で予期したとおりに表が表示されない (16607793)」
- 29 ページの「ドライブの接続を試みるときにドライブコントローラの準備ができていない (16608475)」
- 30 ページの「サーバーはラックに入れたまま輸送できない」
- 30 ページの「プロセッサモジュールのベゼルのラベルが正しくない」

sas2ircu が RAID ボリュームの作成に失敗することがある (15788910)

Oracle Solaris 内で **sas2ircu** コマンドを使用して RAID ボリュームを作成する場合、コマンドがボリュームの作成失敗を報告することがあります。例:

```
# ./sas2ircu 0 create raid0 max 1:0 1:1 1:2 my-RAID0
LSI Corporation SAS2 IR Configuration Utility.
Version 14.00.00.00 (2012.07.04)
Copyright (c) 2009-2012 LSI Corporation. All rights reserved.

You are about to create an IR volume.

WARNING: Proceeding with this operation may cause data loss or data
corruption. Are you sure you want to proceed (YES/NO)? yes

WARNING: This is your last chance to abort this operation. Do you wish
to abort (YES/NO)? no
Please wait, may take up to a minute...
@ Nov 6 09:46:47 sys-33 scsi: /pci@300/pci@1/pci@0/pci@2/scsi@0
(mpt_sas0):
Nov 6 09:46:47 sys-33          Volume 0 is now , enabled, inactive
@ Nov 6 09:47:45 sys-33 scsi: WARNING: /pci@300/pci@1/pci@0/pci@2/scsi@0
(mpt_sas0):
Nov 6 09:47:45 sys-33          passthrough command timeout
@ SAS2IRCU: IocStatus = 0 IocLogInfo = 0
SAS2IRCU: Volume creation failed.
SAS2IRCU: Error executing command CREATE
#
```

Oracle Solaris プロンプトで **sas2ircu** コマンドを再入力すると、そのコマンドは失敗します。**sas2ircu** コマンドは、ディスクがすでにボリュームに格納されているため、間違った数のディスクが指定されたことを通知します。例:

```
# ./sas2ircu 0 create raid0 max 1:0 1:1 1:2 my-RAID0
LSI Corporation SAS2 IR Configuration Utility.
Version 14.00.00.00 (2012.07.04)
Copyright (c) 2009-2012 LSI Corporation. All rights reserved.

SAS2IRCU: Number of drives specified is higher than number of drives
available to create a RAID volume!
SAS2IRCU: Error executing command CREATE.
#
```

sas2ircu コマンドの最初の失敗のあとで、**format** などのその他のディスクユーティリティコマンドによって「drive not available」とマークされたボリュームのディスクメンバーが表示されることがあります。**format** コマンドがハングアップしたように見え、Ctrl-C を入力してコマンドを中止する必要があります。例:

```
# format
Searching for disks...done

AVAILABLE DISK SELECTIONS:
  0. c0t500151795955C40Ed0 <drive not available>
@   /scsi_vhci/disk@g500151795955c40e
    /dev/chassis/unknown.1222BDC067//SYS/SASBP/HDD0/disk
  1. c0t500151795955C19Ed0 <drive not available>
@   /scsi_vhci/disk@g500151795955c19e
    /dev/chassis/unknown.1222BDC067//SYS/SASBP/HDD1/disk
  2. c0t5001517959567D4Dd0 <drive not available>
@   /scsi_vhci/disk@g5001517959567d4d
    /dev/chassis/unknown.1222BDC067//SYS/SASBP/HDD2/disk

Ctrl-C
#
```

回避方法: システムをリブートして、ボリュームを動作状態に復元します。

```
# reboot
```

また、**sas2ircu** コマンドの代わりに使用可能なほかのいずれかの方法を使用してボリュームを作成することもできます。

- **raidconfig** コマンドを使用して、Oracle Solaris の下にボリュームを作成します。Oracle Hardware Management Pack には、**raidconfig** コマンドが含まれます。

Oracle Hardware Management Pack ソフトウェアは、次からダウンロードできます。

<http://support.oracle.com>

使用している Oracle Hardware Management Pack のバージョンのドキュメントは、次の場所で閲覧およびダウンロードできます。

<http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs>

- Fcode ベースの RAID ユーティリティコマンドを使って、OpenBoot プロンプトでボリュームを作成します。

FCode ベースの RAID ユーティリティコマンドの使用手順については、*SPARC T5 シリーズサーバーの管理ガイド*を参照してください。

rKVMS では SPARC クライアントからのストレージのリダイレクトがサポートされていない (15795058)

Oracle Solaris システムでの Java Remote Console Plus のストレージ機能の起動はサポートされていません。

回避方法: Java Remote Console Plus のストレージ機能は、Linux または Windows システムで起動してください。サポートされているブラウザ、オペレーティングシステム、およびプラットフォームの完全なリストについては、『*Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド*』を参照してください。

マウスポインタがリモートウィンドウのカーソルに同調していない (15798251)

Oracle ILOM ビデオリモートコンソールのマウスポインタが正しく追跡しないことがあります。カーソル位置が Oracle Solaris ホストの Xorg サーバーと同調せず、マウスの移動や選択が困難な状態になる可能性があります。

回避方法: この最初の手順で永続的な変更がなされるわけではありませんが、すぐにマウスの移動が簡単になり、より永続的な変更をもたらす手順を実行できます。

1. GNOME デスクトップにログインします。

端末ウィンドウの取得時に問題が発生した場合は、次の方法のいずれかを試してください。

- マウスの右ボタンをクリックします。デスクトップのポップアップが表示されたら、「e」と入力します。
- キーボードで Alt-F2 を押して、端末ウィンドウを取得します。次に、「**gnome-terminal**」と入力します。
- Alt-Tab を押して、目的の端末ウィンドウをアクティブとして選択します。

2. 端末ウィンドウでこのコマンドを入力します。

```
xset m 1 1
```

3. 「Oracle ILOM Remote System Console Plus」ウィンドウの左上隅にある「Mouse Sync」を選択します。

これで、マウス設定のアクセラレーション、感度、およびしきい値を変更して、より永続的な変更を加えることができます。

1. GNOME デスクトップでシステムにログインします。
2. マウス設定のメニューを取得します。

GNOME デスクトップのバージョンに応じて、次のいずれかを選択します。

- 「システム」>「設定」>「マウス」
- 「起動する」>「システム」>「設定」>「マウス」

Alt-F2 を押してから「**gnome-mouse-properties**」と入力しても、この場所に到達できます。

3. マウスの設定値を変更します。
 - 「ポインタの速度」の「加速」=「遅い」
 - 「ポインタの速度」の「感度」=「低い」
 - 「ドラッグ&ドロップ」の「しきい値」=「小さい」

キーボードを使用している場合は、目的の項目が強調表示されるまで Tab キーを押して移動します。値ごとに、左矢印キーを押してスライドを左の端まで移動します。

これらの変更は永続的であり、画面ロックやログアウトのあとも持続します。

Oracle Solaris 11 では、別の方法を使って問題のあるマウスアクセラレーションを最初から無効にできます。ただし、この方法で行われた変更は、Xorg セッション中のマウス加速度へのその後の変更によってオーバーライドされます。

1. 編集のためにこのファイルを開きます。

```
/etc/hal/fdi/preprobe/10osvendor/10-x11-input.fdi
```

そのファイルのほかのコピーをこのディレクトリ内に残さないようにしてください。

2. 次の行を見つけます。

```
<merge key="input.x11_options.StreamsModule" type="string">usbms</merge>
<merge key="input.x11_options.Protocol" type="string">VUID</merge>
```

3. それらの行のあとに、これらの行を追加して、ファイルを保存します。

```
<merge key="input.x11_options.AccelerationScheme" type="string">none</merge>
<merge key="input.x11_options.AccelerationNumerator" type="string">1</merge>
<merge key="input.x11_options.AccelerationDenominator" type="string">1</merge>
<merge key="input.x11_options.AccelerationThreshold" type="string">1</merge>
```

4. これらの Oracle Solaris コマンドを入力します。

```
# svcadm restart hal
# svcadm restart gdm
```

警告メッセージが障害の発生した USB 接続を正しく示していない (15799824)

Oracle Solaris のブート時に、ごくたまにですが、警告メッセージがサーバーのホストコンソールに表示されることがあります。

```
WARNING: /pci@340/pci@1/pci@0/pci@4/pci@0/pci@6/usb@0 (xhci0): Connecting device on port 6 failed
```

この警告メッセージは、障害情報のやりとりを行うために SP と Oracle Solaris ホストのネットワーク接続を確立する際に使用される USB ネットワークデバイス (usbem) がうまく接続できなかったことを示しています。

回避方法: ほとんどの場合、警告メッセージが表示された数秒後に USB デバイスは正常に接続します。USB デバイスが正常に接続したかどうかを確認するには、Oracle Solaris の `/var/adm/messages` ファイルを調べて、後続のメッセージが接続を示しているかどうかを確かめます。

正常な接続を示すメッセージを確認できない場合は、Oracle Solaris ホストをリブートして USB 接続を再度確立します。

リブート後も接続の問題が続く場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

kmdb で failed to allocate XXX bytes と報告される場合がある (15806455)

ごくまれに、カーネルモジュールデバグ (**kmdb**) を使用して稼働中のシステム状態を調べるときに、**kmdb dcmds** が失敗し、次のエラーが表示されることがあります。

```
kmdb: failed to allocate XXX bytes -- recovering.
```

影響を受ける **kmdb** コマンドには、**::cpuinfo** と **::stacks** が含まれます。

エラー状態が報告されたあとも **kmdb** の使用を続けると、機能が低下することがあり、他の組み込み **dcmds** または **walker** も続いて失敗する可能性があります。

kmdb は、メモリー不足の状況から適切に回復しようとしませんが、**kmdb** は回復せずに、強制終了する可能性があります。この場合、手動でシステムを回復する必要があります。

回避方法: 可能な場合は、アクティブデバグに **kmdb** を使用しないようにします。**kmdb** を使用する必要がある場合は、Oracle サービスプロバイダにお問い合わせください。

xhci ブート時に USB ポート上のデバイスが失敗する (15809582)

前面または背面のいずれかの USB ポートに挿入された USB 3.0 デバイスで Oracle Solaris OS をブートすると、次のメッセージが表示される場合があります。

```
WARNING /pci@300/pci@1/pci@0/pci@4/pci@0/pci@6/usb@0  
(xhci0): Connecting device on port 7 failed
```

回避方法: このメッセージは無視しても問題ありません。

/System/Cooling ターゲットが電源装置ファンはサポートされていないと表示する (15809846)

この Oracle ILOM コマンドの入力時:

```
-> show /System/Cooling
```

「Properties」の下の出力には、次の行が含まれます。

```
installed_power_supply_fans = Not Supported  
max_power_supply_fans = Not Supported
```

回避方法: 取り付け済みの電源装置ファンに関する正確な情報を表示するには、**/SYS** ターゲットを含む、この Oracle ILOM コマンドを入力します。

```
-> show /SYS -l all type=='Fan' value
```


libldom/ldom_xmpp_client.c 内でファイル記述子が漏えいしている (15811297)

論理ドメインマネージャー (ldmd) がしばらく停止すると、Oracle Solaris の予測的自己修復 (Predictive Self-Healing, PSH) 障害管理デーモン (fmd) が動作しなくなる可能性があります。SPARC T5 シリーズサーバーでは、I/O 障害 (ディスク障害など) は Oracle Solaris の fmd によって診断されます。その他の障害は、SP の Oracle ILOM によって診断され、このバグの影響は受けません。

修正を含むパッチが入手可能になりしだい、そのパッチをインストールするようにしてください。10 ページの「[パッチを取得する](#)」を参照してください。

回避方法: I/O 障害が報告されていないと推測される場合は、これらの手順を実行します。

1. ldmd がオンラインかどうかを確認します。

ldmd がオンラインの場合、このバグは問題ではありません。サービスマニュアルの障害管理手順を参照してください。

ldmd がオフラインの場合は、手順 2 に進みます。

2. ldmd を再起動します。
3. fmd を再起動します。

I/O の障害が発生した可能性があります。PSH で診断されませんでした。サービスマニュアルの記述に従って、システムログを確認して問題を特定してください。

断続的な fault.sunos.eft.unexpected_telemetry の障害が発生する (15820471)

多数の訂正可能なエラーを報告するデバイスは、無効にされている間もエラーを報告し続けます。各エラーはキューに入れられ、順番に診断されます。まれに、デバイスによって報告された最後のエラーがキューに入れられたあと、そのデバイスが無効になるまで診断の処理が行われないことがあります。この最後のエラーが予期しないテレメトリとして報告されるのは、デバイスがそのシステムで有効でなくなっているからです。

例:

```
# fmadm faulty
-----
Time                UUID                               msgid
Severity
-----
2012-10-04/17:24:07 87732365-faa6-e9cd-bf2a-9052cb8cf876 SUNOS-8000-J0
Major
Problem Status      : solved
Diag Engine         : [unknown]
System
  Manufacturer      : Oracle Corporation
  Name              : T5-8
  Part_Number       : 7045605
  Serial_Number     : xxxxxxxxxxxx
-----
```

```

Suspect 1 of 2
  Fault class   : fault.sunos.eft.unexpected.telemetry
  Certainty    : 50%
  Affects      : dev:///pci@1040/pci@1/pci@0
  Status       : faulted but still in service
FRU
  Status       : faulty
  Location     : -
  Chassis
    Manufacturer : Oracle Corporation
    Name         : T5-8
    Part_Number  : 7045605
    Serial_Number : xxxxxxxxxxxx
-----
Suspect 2 of 2
  Fault class   : defect.sunos.eft.unexpected_telemetry
  Certainty    : 50%
  Affects      : dev:///pci@1040/pci@1/pci@0
  Status       : faulted but still in service
FRU
  Status       : faulty
  Location     : -
  Chassis
    Manufacturer : Oracle Corporation
    Name         : T5-8
    Part_Number  : 7045605
    Serial_Number : xxxxxxxxxxxx
Description: A fault has been diagnosed by the Host Operating System.

Response   : The service required LED on the chassis and on the affected
             FRU may be illuminated.

Impact     : No SP impact.

Action     : Refer to the associated reference document at
             http://support.oracle.com/msg/SUNOS-8000-J0 for the latest
             service procedures and policies regarding this diagnosis.
    
```

回避方法: この場合、予期しないテレメトリ障害は安全に無視できます。

1. **fmadm faulty** コマンドを使用して障害の UUID を取得します。

```

# fmadm faulty
-----
-----
Time                UUID                                msgid
Severity
-----
-----
2012-10-04/17:24:07 87732365-faa6-e9cd-bf2a-9052cb8cf876 SUNOS-8000-J0
Major
...
    
```

2. その UUID を使用して、予期しないテレメトリ障害を Oracle Solaris ホストから消去します。

```

# fmadm repair 87732365-faa6-e9cd-bf2a-9052cb8cf876
    
```

ilomconfig が Internal Error を報告することがある (15823485)

OS と SP の間の通信チャンネルを有効にする Oracle Solaris の **ilomconfig** コマンドが **Internal Error** メッセージを表示して失敗することがときどきあります。

この通信チャンネルはデフォルトで有効になっており、操作の通常の過程で無効になることは普通はありません。ただし、スーパーユーザーがこの Oracle Solaris コマンドを使用すれば、そのチャンネルを無効にできます。

```
# ilomconfig disable interconnect
Host-to-ILOM interconnect disabled.
```

その相互接続を有効にするためのコマンドが、このエラーメッセージを表示して再度失敗することがときどきあります。

```
# ilomconfig enable interconnect
ERROR: Internal error
```

この状況が発生した場合は、回避方法に従ってリンクを再度有効にします。これは、そのリンクが Oracle Solaris インスタンスと SP の間の診断データの転送に使用されていて、すぐに有効にし直す必要があるためです。

回避方法: コマンドを再入力して相互接続を有効にします。

```
# ilomconfig enable interconnect
Host-to-ILOM interconnect successfully configured.
```

障害が続く場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

高速 PCIe I/O カードが Gen1 I/O 速度にダウントレーニングすることがある (15825866)

ごくまれに、5.0 GT/秒以上のデータ転送速度の能力がある PCIe オプションカードが、サポートされる最大ターゲット速度でのトレーニングに失敗することがあります。代わりに、それらは 2.5GT/秒の最低速度でトレーニングを行い、それによって I/O パフォーマンスが低下する可能性があります。

回避方法: PCIe カードに障害が発生した場合、これらの手順を実行します。

1. I/O パフォーマンス不足の疑いがある場合は、**prtdiag** コマンドを使用して、PCIe カードの I/O パフォーマンスを表示します。

各スロットの現在のリンクデータ速度が Speed の見出しの下に表示されます。

```
# prtdiag
System Configuration:  Oracle Corporation  sun4v
Memory size: 523008 Megabytes
...
===== I0 Devices =====
```

Slot + Status	Bus Type	Name + Path	Model	Speed
/SYS/MB/USB_CTLR	PCIE	usb-pciexclass,0c0330 /pci@300/pci@1/pci@0/pci@4/pci@0/pci@6/usb@0		5.0GTx1
/SYS/RI0/NET0	PCIE	network-pciex8086,1528 /pci@300/pci@1/pci@0/pci@4/pci@0/pci@8/network@0		5.0GTx8
/SYS/RI0/NET1	PCIE	network-pciex8086,1528 /pci@300/pci@1/pci@0/pci@4/pci@0/pci@8/network@0,1		5.0GTx8
/SYS/RCSA/PCIE2	PCIE	SUNW,qlc-pciex1077,2532 /pci@400/pci@1/pci@0/pci@c/SUNW,qlc@0	QLE2562	5.0GTx4
/SYS/RCSA/PCIE2	PCIE	SUNW,qlc-pciex1077,2532 /pci@400/pci@1/pci@0/pci@c/SUNW,qlc@0,1	QLE2562	5.0GTx4
/SYS/RCSA/PCIE4	PCIE	SUNW,qlc-pciex1077,2532 /pci@440/pci@1/pci@0/pci@c/SUNW,qlc@0	QLE2562	5.0GTx4
/SYS/RCSA/PCIE4	PCIE	SUNW,qlc-pciex1077,2532 /pci@440/pci@1/pci@0/pci@c/SUNW,qlc@0,1	QLE2562	5.0GTx4
/SYS/RCSA/PCIE10	PCIE	SUNW,qlc-pciex1077,2532 /pci@480/pci@1/pci@0/pci@4/SUNW,qlc@0	QLE2562	5.0GTx4
/SYS/RCSA/PCIE10	PCIE	SUNW,qlc-pciex1077,2532 /pci@480/pci@1/pci@0/pci@4/SUNW,qlc@0,1	QLE2562	5.0GTx4
/SYS/RCSA/PCIE6	PCIE	SUNW,qlc-pciex1077,2532 /pci@600/pci@1/pci@0/pci@8/SUNW,qlc@0	QLE2562	5.0GTx4
/SYS/RCSA/PCIE6	PCIE	SUNW,qlc-pciex1077,2532 /pci@600/pci@1/pci@0/pci@8/SUNW,qlc@0,1	QLE2562	5.0GTx4
/SYS/RCSA/PCIE8	PCIE	SUNW,qlc-pciex1077,2532 /pci@640/pci@1/pci@0/pci@8/SUNW,qlc@0	QLE2562	5.0GTx4
/SYS/RCSA/PCIE8	PCIE	SUNW,qlc-pciex1077,2532 /pci@6c0/pci@1/pci@0/pci@c/pci@0/pci@4/network@0	QLE2562	5.0GTx4
/SYS/RI0/NET2	PCIE	network-pciex8086,1528 /pci@6c0/pci@1/pci@0/pci@c/pci@0/pci@4/network@0		5.0GTx8
/SYS/RI0/NET3	PCIE	network-pciex8086,1528 /pci@6c0/pci@1/pci@0/pci@c/pci@0/pci@4/network@0,1		5.0GTx8
/SYS/RI0/USB_CTLR	PCIE	usb-pciexclass,0c0330 /pci@6c0/pci@1/pci@0/pci@c/pci@0/pci@6/usb@0		5.0GTx1
/SYS/RI0/VIDEO	PCIE	display-pciex102b,522 /pci@6c0/pci@1/pci@0/pci@c/pci@0/pci@7/display@0		2.5GTx1
/SYS/MB/SASHBA1	PCIE	scsi-pciex1000,87 /pci@6c0/pci@1/pci@0/pci@c/pci@0/pci@c/scsi@0	LSI,2308_2	5.0GTx8

特定のオプションカードのターゲット転送速度を調べるには、そのドキュメントを参照してください。

2. PCIe カードがシステムでサポートされる最大ターゲット速度を満たしていない場合は、サービスマニュアルに記載されているホットサービス可能な方法で PCIe カードを取り除いてから再度取り付けてください。



注記

PCIe カードを物理的に取り外して取り付ける必要はありません。

アクティブな mempm がすべてのノードでケージ割り当てのバランスを取るべきである (15944881)

大規模な SPARC T5 シリーズサーバードメインでは、特定のワークロードで、予期しないパフォーマンス不足やパフォーマンスの低下が示される場合があります。さらに、多数のネットワークアダプタを備えた大規模な SPARC T5 シリーズサーバードメインでは、ネットワークスループットの合計が、12G バイト/秒以下に制限されることがあります。

Oracle Solaris カーネルはそのデータ構造をケージ内部で管理し、ケージによってカーネルメモリの限界が定められます。このケージは、必要であれば、時間の経過に伴って拡張することが可能です。理想的には、ケージはドメイン内のすべてのメモリーに配分されるので、カーネルが 1 つの局所グループ (lgrp) 内でメモリーを使い尽くすことはありません。lgrp 内のプロセッサで実行しているユーザーレベルコードは、別の lgrp のリモートメモリーを使用した場合よりもローカルメモリーを使用できる場合にパフォーマンスが向上するので、複数の lgrp にケージを配分することが望まれます。

回避方法: チューニング可能な mempm パラメータは、カーネルがケージの増大と分散をどのように管理するかを定義しています。ほとんどのワークロードでは、mempm パラメータをそのデフォルト値 (0) のままにしておき、電力管理コードがケージの割り当てに影響を及ぼすようにすることができます。ただし、ワークロードによっては、電力対応でない従来のケージ割り当てアルゴリズムを使用したほうが、カーネルメモリーがより均等に分散される場合もあります。

多数の CPU が存在する大規模ドメインで、予期しない低パフォーマンスまたは負の単位がアプリケーションレベルで観察される場合は、mempm パラメータを設定します。mempm パラメータを 1 に設定すると、電源管理システムのケージ割り当てアルゴリズムが無効になり、カーネルが従来のケージ割り当てアルゴリズムに戻ります。

mempm パラメータを設定するには:

1. /etc/system ファイルに次を追加します。

```
set plat_disable_mempm=1
```

2. サーバーをリブートして、メモリーの使用状況を観察して (たとえば、**lgrpinfo** ツールを使用)、メモリーが複数の lgrp 間でより均一になっているかどうかを調べます。



注記

この問題が続く場合は、Oracle サービスプロバイダにお問い合わせください。

HC からの再構成呼び出し後に POST が機能しない (15968276)

POST はブートシーケンスの一環として実行され、システムがハードウェア障害を検出すると、POST の ERROR メッセージ (そのあとに INFO メッセージが続く) が表示されることがあります。ブートシーケンスは続行しますが、システムには未検査のハードウェアが含まれる可能性があります。未検査のハードウェアは、ブート後にオペレーティングシステムで利用できます。

このような場合、POST は数分間ストールしてから、次の例のように e レポートを送信します。

```
2013-01-23 15:30:55:990 0:0:0>ERROR:
  ereport.chassis.post.io.test-fail@/SYS/MB/CM0/CMP/PCIE_LINK1
  reporting PCPU ID=0
  TestTitle=IO Trap Handler
  Operation=Data Access Error (Type: 32)
  Trap PC=0x0000000000560b8c
  Trap Level=0x01
  NPESR=0x0000000000000001
  NPEAR=0x0000805100700000
END_ERROR

2013-01-23 15:30:56:054 0:0:0>INFO: Link Down Recovery Not
Supported
2013-01-23 15:31:02 0:0:0> ERROR: POST Timed out. Not all
components tested
```

回避方法 A: `cmdump -eV` コマンドを使用して、エラーログとコンソールメッセージを確認します。障害のあるハードウェアがあれば、交換または修理します。

回避方法 B: POST を再起動します。POST は、障害のあるコンポーネントがすでに構成解除されているシステムでは動作します。

ドライブを構成解除したときに、ドライブの取り外し OK LED が点灯しないことがある (16051551)

この問題は、Oracle Solaris 10 1/13 OS が動作しているサーバーにのみ該当します。

`cfgadm(1M)` コマンドを使用してドライブを構成解除した場合に、そのドライブの青色の取り外し OK LED が点灯しないことがあります。この問題により、ドライブが取り外し可能であることを確認したり、ドライブの物理的な位置を特定したりするのが難しくなります。

回避方法: これらの手順を実行して、ドライブが取り外し可能であることを確認したり、ドライブの物理スロットを特定したりします。

1. `cfgadm` コマンドを使用して、構成解除を予定しているドライブの WWID を特定します。

この例では、5 番目のドライブが構成解除されます。5 番目のドライブの WWID は `w5000c50033278c09,0` です。

```
# cfgadm -al |
grep disk
c7: :w5000cca016065039,0          disk-path    connected    configured
unknown
```

```

c8::w5000cca0257b4999,0      disk-path  connected  configured
unknown
c9::w5000cca0257ca335,0      disk-path  connected  configured
unknown
c10::w5000cca03c252999,0     disk-path  connected  configured
unknown
c13::w5000c50033278c09,0     disk-path  connected  configured
unknown

```

2. ドライブを構成解除します。

```
# cfgadm -c unconfigure c13::w5000c50033278c09,0
```

3. ドライブが構成解除されていることを確認します。

```

# cfgadm -al |
grep disk
c7::w5000cca016065039,0      disk-path  connected  configured
unknown
c8::w5000cca0257b4999,0      disk-path  connected  configured
unknown
c9::w5000cca0257ca335,0      disk-path  connected  configured
unknown
c10::w5000cca03c252999,0     disk-path  connected  configured
unknown
c13::w5000c50033278c09,0     disk-path  connected  unconfigured
unknown <<==

```

ドライブの取り外し OK LED が点灯しない場合は、残りの手順を実行します。

4. `prtconf -v` コマンドの出力をファイルに送信します。

```
# prtconf -v > /tmp/prtconf.out
```

5. エディタを使ってそのファイルを開き、構成解除されたドライブの WWID (この手順の例では **5000c50033278c09**) を検索します。
6. その出力で、ドライブの位置とそのドライブがオフラインであることを確認します。

ドライブの位置を特定するには、WWID の 2 行上を確認します (この例では HDD4)

WWID を含む行のあとの行を確認します。「**offline**」という語は、そのドライブが構成解除されていることを示します。

```

disk, instance #13 (driver not attached)
      System software properties:
          name='ddi-devid-registrant' type=int items=1

```

```

        value=00000001
Hardware properties:
  name='class' type=string items=1
  value='scsi'
  name='inquiry-revision-id' type=string items=1
  value='0B70'
  name='inquiry-product-id' type=string items=1
  value='ST930003SSUN300G'
  name='inquiry-vendor-id' type=string items=1
  value='SEAGATE'
  name='inquiry-device-type' type=int items=1
  value=00000000
  name='compatible' type=string items=4

value='scsiclass,00.vSEAGATE.pST930003SSUN300G.r0B70' +
'scsiclass,00.vSEAGATE.pST930003SSUN300G' + 'scsiclass,00' +
'scsiclass'
  name='client-guid' type=string items=1
  value='5000c50033278c0b'
Location: /dev/chassis/SPARC_T5-2.1144BD5ZZZ//SYS/SASBP/HDD4/disk <==
Location
  Paths from multipath bus adapters:
  Path 5:
  /pci@3c0/pci@1/pci@0/pci@2/scsi@0/iport@1/disk@w5000c50033278c09,0
  mpt_sas#7 (offline) <==
Driver offline means drive is unconfigured.
  name='wwn' type=string items=1
  value='5000c50033278c0b'
  name='lun' type=int items=1
  value=00000000
  name='lun64' type=int64 items=1
  value=0000000000000000
  name='target-port' type=string items=1
  value='w5000c50033278c09'
  name='attached-port' type=string items=1
  value='w508002000147f5b1'
  name='attached-port-pm' type=string items=1
  value='1'
  name='target-port-pm' type=string items=1
  value='1'
  name='phy-num' type=int items=1
  value=00000000
  name='obp-path' type=string items=1
  value=

```



```
 '/pci@3c0/pci@1/pci@0/pci@2/scsi@0/disk@w5000c50033278c09,0'
```

FPGA iPOST power-on-reset、error-reset、および hw-change トリガーが機能しない (16192025)

SP 上の Oracle ILOM ソフトウェア内から、SP のブートシーケンス中に FPGA iPOST (Oracle ILOM POST) がいつ実行されるかの制御が次のプロパティによって管理されます。

- /SP/diag mode
- /SP/diag trigger

デフォルトでは、これらのプロパティは FPGA iPOST の実行が無効になるように定義されています。例:

```
...
/SP/diag mode=off
/SP/diag trigger=all-resets
...
```

/SP/diag mode を normal に変更して iPOST を有効にした場合に、さらに /SP/diag trigger を all-resets からその他の値 (power-on-reset、error-reset、または hw-change) に変更した場合、iPOST は実行されません。さらに、ブートシーケンス中に次のメッセージが SER MGT ポートに表示され、iPOST が実行されていないことを示します。

```
...
Starting IPMI Stack: . Done
Starting BBR daemon...
bbrd started after 0 seconds.
Starting SP fishwrap cache daemon: fishwrapd . Done
FPGA iPOST skipped
Starting Host daemon: hostd . Done
Starting Network Controller Sideband Interface Daemon: ncsid . Done
Starting Physical Domain Manager: pdm . Done
Starting Platform Obfuscation Daemon: pod . Done
Starting vbsc daemon: vbsc . Done
...
```

回避方法 A: SP のブート時に iPOST を実行させるには、それが有効になっているときに、trigger プロパティが all-resets に設定されているようにします。

1. ホストが稼働していない状態で、SP にログインします。
2. /SP/diag trigger を all-resets に設定します。
 - a. Oracle ILOM CLI で、次を入力します。

```
-> set /SP/diag trigger=all-resets
```

- b. Oracle ILOM BUI で、「System Management」を左クリックし、左側のペインで「Diagnostics」エントリを左クリックします。続いて、右側のペインの trigger というラベルの下にある 3 つのボックスをすべて選択します。
3. SP をリブートします。

次の出力がシステムコンソールに表示されるはずですが。

```
...
Starting IPMI Stack: . Done
Starting BBR daemon...
bbrd started after 0 seconds.
Starting SP fishwrap cache daemon: fishwrapd . Done
Running FPGA iPOST
Starting Host daemon: hostd . Done
Starting Network Controller Sideband Interface Daemon: ncsid . Done
Starting Physical Domain Manager: pdm . Done
Starting Platform Obfuscation Daemon: pod . Done
Starting vbsc daemon: vbsc . Done
...
```

同じ名前の複数の LDOM 構成ファイルが存在する場合に Oracle ILOM が混乱する (16239544)

複数の `ldmd` 構成ファイルをさまざまな名前で持つことができます。それらの名前は大文字と小文字の区別がある (つまり、「Alpha」と「alpha」は異なる名前である) ため、同じ単語を使用する構成ファイルを持つことができます。Oracle ILOM の UI 名は大文字と小文字の区別がありませんが、大文字と小文字が保存されます。このため、「Alpha」や「alpha」のような複数の構成ファイル名は、Oracle ILOM UI に混乱をもたらします。

たとえば、複数の構成ファイル名が存在する場合に、次を入力すると、UI はハングアップします。

```
-> show /HOSTx/domain/configs
```

回避方法: 大文字と小文字が一致する `ldmd` 構成ファイルの 1 つを削除します。そして、Oracle ILOM インフラストラクチャーが UI プロセスを自動的に再起動するまで待ちます。

CPU の電力管理によってディスクの IOPS パフォーマンスが低下する可能性がある (16355418)

短時間に非常に多くの I/O 操作の実行を試みる I/O 集中型のワークロードは、無負荷時のシステムであっても、I/O パフォーマンスの低下を招く可能性があります。ただし、実行する負荷の大きな I/O 操作の数が少なければ、この問題の影響を受けません。

回避方法: 影響を受ける 1 つまたは複数のドメイン内で次のコマンドを入力します。

```
# poweradm set administrative-authority=none
```

この問題が続く場合は、Oracle サービスプロバイダにお問い合わせください。

SR-IOV デバイスの使用中に、リソースをバインド解除または削除しようとするときとハングし、Ctrl-C キーを使用して停止できない (16426940)

ごくまれに、SR-IOV デバイスの使用中に、`ldm(1M)` コマンドがハングし、Ctrl-C でも中止できない場合があります。これは、このコマンドを実行してゲストドメインをバインド解除したり、ゲストドメインから仮想機能を削除した場合に起きることがあります。

この問題が発生する可能性のあるコマンドは次のとおりです。

- `ldm unbind ldg1`
- `ldm rm-io /SYS/RIO/NET0/IOVNET.PF0.VF10 ldg1`

回避方法: プライマリドメイン上で Oracle Solaris をリブートして、この状況を解消します。ゲストドメインが IO リソースをプライマリドメインと共有する場合は、影響を受ける各ゲストドメインでも Oracle Solaris をリブートします。

Oracle Solaris 10 OS が一部の障害情報を表示しない (16456603)

この問題は Oracle Solaris 10 OS にのみ該当します。この問題は Oracle Solaris 11.1 OS には該当しません。

SPARC T5 シリーズサーバーは、Oracle Solaris OS 内で SP (Oracle ILOM) 障害を表示する機能を導入しています。ただし、影響を受けた FRU、FRU の場所、プラットフォームのシリアル番号といった一部の情報フィールドは Oracle Solaris 10 OS によって正しく解釈されません。

以前のリリースのプラットフォームと同様に、重大な障害が SP で検出されると、シャーシの障害 LED が点灯して、SP のステータスを調べる必要があることが示されます。

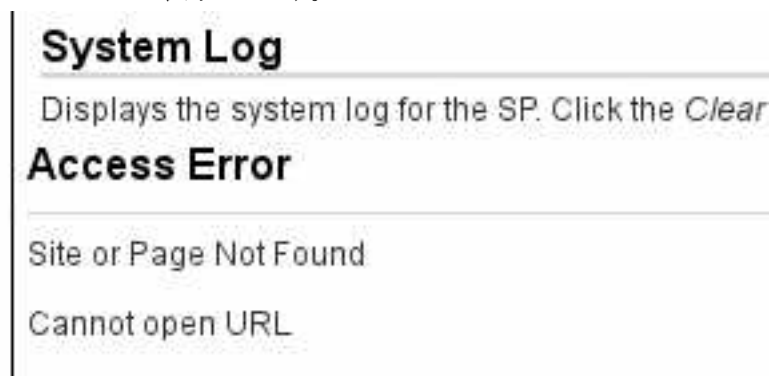
回避方法: 不明な情報や不完全な情報を含むプロキシング障害が発生した場合は、必要な情報を SP から収集します。手順については、『SPARC T5-8 サーバースerviceマニュアル』を参照してください。

SP の管理で予期したとおりに表が表示されない (16607793)

Oracle ILOM Web インタフェースを使って SP を管理する場合、「System Log」をクリックするとシステムログが表で表示されます。表の一番下にあるアイコンを使って、システムログをページ単位で表示したり、システムログの全ページを単一のページとして表示できます。



ただし、アイコンのいずれかをクリックすると、Web インタフェースにシステムログではなくこのエラーメッセージが表示されます。



「System Log」をクリックしてシステムログを再度表示します。

回避方法: システムログを表示するための回避方法は 2 つあります。

- 複数のページを 1 つのページとして表示するには、28 ページの「表示行数を最大の 999 に設定する」を参照してください。
- 連続したページを表示するには、28 ページの「改ページでシステムログを表示する」を参照してください。

表示行数を最大の 999 に設定する



注記

この回避方法では、最近のシステムログエントリだけを最大 999 個表示できます。この制限より古いエントリは、Web インタフェースに表示できません。最新の 999 よりも古いログエントリを表示するには、2 番目の回避方法 (28 ページの「改ページでシステムログを表示する」) を使用してください。

1. 「System Log」ページでこのアイコンをクリックします。



「Table Preferences」ペインが開きます。

2. 「Rows Per Page」値を 999 に設定します。
3. 「OK」をクリックします。

システムログテーブルが、最大 999 行の長さで再表示されます。

改ページでシステムログを表示する

1. Oracle ILOM CLI インタフェースで、システムログを表示します。

```
-> show /System/Log/list/
Log
ID      Date/Time          Event Type
Subsystem
-----
-----
211     Tue Apr  9 07:12:13 2013  Disk
      Removed          Storage
      Component:HDD2 (Disk 2)
      Disk Removed at location HDD2 (Disk 2)
210     Tue Apr  9 07:11:42 2013  Disk
      Removed          Storage
      Component:HDD1 (Disk 1)
      Disk Removed at location HDD1 (Disk 1)
.
.
.
```

```
Paused: press any key to continue, or 'q' to quit
```



注記

出力の幅および各ページに表示されるログエントリのは、コマンド入力時の端末ウィンドウのジオメトリに依存します。

2. システムログの次ページを表示するにはスペースバーを押し、出力を停止するには Q キーを押します。

ドライバの接続を試みるときにドライブコントローラの準備ができていない (16608475)

時折、サーバーをブートする際、ドライバが接続を試みるがドライブコントローラの準備ができていないことがあります。

- この問題がブートドライブとして機能するディスクコントローラ上で発生する場合、ホストコンソールにこれらの OpenBoot メッセージが表示されます。

```
failed in wait-for-doorbell
send-message / issue-ioc-facts failed
issue-ioc-facts failed
Can't open adapter
ok
```

この状況では、**回避方法 A** を使用してください。

- この問題がブートドライブとして機能しないディスクコントローラ上で発生する場合は、ホストコンソール上の Oracle Solaris ドライバから、および /var/adm/messages 内にこれらのメッセージが表示されます。

```
Probing for device nodes...
@WARNING: /pci@3c0/pci@1/pci@0/pci@2/scsi@0 (mpt_sas1):
mptsas_ioc_get_facts failed
@WARNING: /pci@3c0/pci@1/pci@0/pci@2/scsi@0 (mpt_sas1):
mptsas chip initialization failed
@WARNING: /pci@3c0/pci@1/pci@0/pci@2/scsi@0 (mpt_sas1):
attach failed
```

この状況では、**回避方法 B** を使用してください。

回避方法: サーバーがブートしなかった場合は回避方法 A を使用します。ドライバが 2 番目のディスクコントローラに接続しなかった場合、回避方法 B を使用します。

回避方法 A:

1. SP にログインし、自動ブートを無効にします。

```
-> set /HOST/bootmode script="setenv auto-boot? false"
```

2. ホストの電源をいったん切って電源を入れ、OpenBoot プロンプトを表示します。
3. システム内のドライブを検証します。

```
ok probe-scsi-all
```

4. 出力を検査して、すべてのドライブが表示されることを確認します。
5. **boot** コマンドを入力して、サーバーをブートします。

回避方法 B:

1. Oracle Solaris で、root としてログインして、ドライブをオンラインにします。

```
# devfsadm -C
```

2. ブート時にオンラインにするドライブに依存しているために、起動しないサービスがあったかどうかを判定します。

この場合、これらのサービスを手動で再起動します。または、サービスを再起動する方法がわからない場合、サーバーをリブートしてすべてのサービスを再起動します。

サーバーはラックに入れたまま輸送できない

サーバーは、重量があるため、ラックに入った状態で輸送しないでください。サーバーは最終的な場所でのみラックに取り付けてください。

プロセッサモジュールのベゼルのラベルが正しくない

一部のサーバーでは、プロセッサモジュールのラベルが正しくありません。プロセッサモジュールはコールドサービスコンポーネントです。サーバーから取り外す前に、プロセッサモジュールをシャットダウンする必要があります。

ドキュメントに関する問題点

これらのトピックでは、製品ドキュメントに関する既知の問題について説明します。

- [30 ページの「プロセッサモジュールのラベルに正しくない DIMM 構成が示されている」](#)
- [31 ページの「プロセッサモジュールのラベルに正しくないプロセッサモジュール構成が示されている」](#)
- [31 ページの「プロセッサモジュールのラベルにフィルターパネルのサポートが示されている」](#)

プロセッサモジュールのラベルに正しくない DIMM 構成が示されている

プロセッサモジュールのラベルには、DIMM の半数配置がサポートされていると示されています。DIMM の半数搭載はサポートされている構成ではありません。プロセッサモジュールは、16G バイトまたは 32G バイトのどちらかの DIMM ですべて埋める必要があります。

プロセッサモジュールのラベルに正しくないプロセッサモジュール構成が示されている

プロセッサモジュールのラベルに、サーバーが 2 つ、3 つ、または 4 つのプロセッサモジュール構成をサポートしていると示されています。このリリースの時点では、サーバーは完全構成しかサポートしていません。

プロセッサモジュールのラベルにファイラーパネルのサポートが示されている

プロセッサモジュールのラベルには、DIMM およびプロセッサモジュールのファイラーパネルサポートされていると示されています。このリリースの時点では、これらのコンポーネントはサポートされていません。
